

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1  
管理機関名 兵庫県教育委員会  
代表者名 西上 三鶴

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立兵庫高等学校

学校長名 升川 清則

類型 グローカル型

3 研究開発名

“次世代が選ぶまち” KOBE の実現

～地域社会の未来を担い世界へはばたく実践者の育成～

4 研究開発概要

本研究では、地域課題の探究と同時に正解のない国際的な課題をも見つめ直し、その共通点を探りつつ課題解決策を生徒自らが模索する。コンソーシアム各機関との協働により SDGs に関連するテーマについて探究活動を行い、事業終了後も「ESD for 2030」に向けた永続的な教育活動ができるような体制を構築する。グローバルな探究テーマとして①持続可能な地域経済の発展、②先進技術を活用した環境・健康・医療・福祉の充実、③ビッグデータを活用した外国人との共生・交流を設定し、それらに関連する課題を生徒自らが設定して探究活動を行い、成果を地域に還元する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- |             |  |   |                                  |
|-------------|--|---|----------------------------------|
| ・学校設定教科・科目  | <input checked="" type="checkbox"/> 開設している | ・ | <input type="checkbox"/> 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | <input checked="" type="checkbox"/> 活用している | ・ | <input type="checkbox"/> 活用していない |

## 6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
水山 光春	京都橘大学発達教育学部・教授	学識経験者(委員長)
廣岡 徹	兵庫教育大学教職大学院・元教授	学識経験者(副委員長)
橋本 博紀	財務省近畿財務局神戸財務事務所・所長	関係行政機関の職員
小室 貴史	(株)神戸ポートピアホテル・常勤監査役	研究対象地域に見識を有する者
藤岡 健	神戸市企画調整局つなぐラボ・つなぐ担当部長	関係行政機関の職員
岡田 徹	公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター長	海外交流アドバイザー
西田 利也	兵庫県教育委員会事務局高校教育課・課長	関係行政機関の職員

## 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
神戸市	市長 久元 喜造
財務省近畿財務局神戸財務事務所	所長 橋本 博紀
神戸商工会議所	会頭 家次 恒
株式会社ダイヘン	代表取締役会長 田尻 哲也
大阪大学	総長 西尾 章治郎
神戸大学	学長 藤澤 正人
兵庫県立大学	学長 太田 勲
WHO神戸センター	所長 サラ・ルイーゼ・バーバー
松江第二高等学校(中国)	校長 ユ・ジンフェイ
フエ大学(ベトナム)	学長 グエン・クアン・リン
ハノイ国家大学自然科学大学附属高校(ベトナム)	校長 レ・コン・ロイ
ベクスリーグラマースクール(イギリス)	校長 ステファン・エルフィック

## 8 カリキュラム開発専門家, 海外交流アドバイザー, 地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	安藤 福光	兵庫教育大学大学院学校経営コース 准教授	非常勤
海外交流アドバイザー	岡田 徹	公益財団法人ひょうご産業活性化センターひょうご海外ビジネスセンター長	非常勤
地域協働学習実施支援員	藤岡 健	神戸市企画調整局つなぐラボ	なし

## 9 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会							○				○	
HYOGO×WKC フォーラム高校生SDGs探究発表会											○	
ひょうご次世代リーダー育成推進懇話会									○中止			
兵庫型 STEAM 教育実践モデル校指定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

### (2) 実績の説明

- ①研究の進捗状況を把握し、年2回(10月、2月)の運営指導委員会において、本年度研究開発事業についての「進捗状況」及び「成果と課題」報告に基づき、運営指導委員と連携しながら、学校に対して適宜指導、助言を行った。
- ②兵庫県教育委員会、WHO 神戸センターが主催して「HYOGO×WKC フォーラム 高校生 SDGs 探究発表会 2021」をオンラインで実施した。その中で兵庫高校は幹事校とすることで、運営協力をしてもらった。また、兵庫高校の取組を県内の他校と共有し、探究的な学びの普及に努めた。
- ③「グローバル型」および「ひょうごスーパーハイスクール」(県事業)の指定を受けている学校を招集し、SDGsをはじめとする世界や地域が抱える課題の解決について議論する「ひょうご次世代リーダー育成推進懇話会」(12月)を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から中止した。
- ④地域との協働事業との相乗効果を狙い、兵庫型 STEAM 教育実践モデル校として指定し、文理融合型教育の展開を目指す研究開発を進めた。校内体制についても、特色企画部を設置して実施体制を整え、STEAM 教育開発の独自性を明確にするとともに、地域との協働事業との連携を強化するよう指導した。

## 10 研究開発の実績

### 10-1 コンソーシアムとの連携によるグローバル型探究活動

#### (1) 実施日程 ※◎は発表会(RREは外国人留学生との交流会)開催

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
普通科探究活動(第1学年)		○	○	○			○	○	◎			○

普通科探究活動 (第2学年)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○
普通科探究活動 (第3学年)	○	○	○	◎		○	○	○				
普通科グローバル リサーチ	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○
総合科学科 「創造基礎」	○	○	◎	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○
創造科学科 「課題研究」						○	○	○	○	○	◎	○
総合科学科 「RRE」	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○
総合科学科 「創造応用」	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	○	○	◎	
校外研修	◎			◎	◎			◎	◎		◎	◎

## (2) 実績の説明

- ①研究テーマ「持続可能な地域経済の発展」「先進技術を活用した環境・健康・医療・福祉の充実」「ビッグデータを活用した外国人との共生・交流」に基づき、グローバル型探究活動（第1学年グローバルリサーチコース「未来探究ゼミナール: 在日外国人向け観光予報データサイエンス」、第2学年グローバルリサーチコース「在日ベトナム人向けの医療手続きの簡略化」）を実践した。総合科学科とグローバルリサーチコースの探究活動の質的向上を図るとともに、令和2年度より普通科全生徒を対象として先行実施している「総合的な探究の時間」において学校全体で取り組む探究活動を定着させた。
- ②第1学年普通科では、キャリア教育（「キャリア・サポーターから話を聞く会」7/14）や、社会的課題に関する講義（神戸大学ジャンモネ CoE「高校生ミニシンポジウム」12/23、「SDGs 講演会」（東京都市大学大学院環境情報学研究科 佐藤真久教授 3/22）と STEAM 教育活動（計7回：動画完成発表会 12/20）を中心に実施した。
- ③第2学年普通科では、1学期に研究テーマの設定に向け、新聞活用とともに、SDGs と地域の課題を架橋する講演会を実施。2学期以降、研究グループごとにテーマに応じた研究手法を用いて、スライドによる中間発表を行った（2/7、2/24）。また兵庫県 NIE 推進協会実践指定校として、新聞6紙（朝日、産経、日経、毎日、読売、神戸）の提供を受け、研究テーマの発見や関連知識の習得および同協会主催の記者派遣事業を通して研究のまとめ方について学習した。神戸新聞主催「新聞感想文コンクール」、日本新聞協会主催「いっしょに読もう！新聞コンクール」のいずれかに全員が取り組み、3名が入賞した。
- ④第3学年普通科では、中間発表の反省を踏まえ、研究タイトル、研究計画の修正を行った。完成発表会（7/13）では、「県立学校学びのイノベーション推進事業」によるタブレット端末を用いてポスターを作成し、発表を行った。2年生もオーディエンスとして参加した。
- ⑤グローバルリサーチコースでは、「地域における多文化共生」の視点から、専門家によるリレー講座やフィールドワーク等を通して、地域の課題を発見し、解決策を提案する論文にまとめて発表する探究活動を行った。外部の発表会に参加し、学習の成果を積極的に発信した。

- ⑥創造科学科第1学年「創造基礎」では、現代社会の諸問題（「兵庫県の未来」、「長田区の現状とこれから」、「男性の育児休業」、「多文化共生のためのシティズンシップ教育」、「21世紀の担い手となるための財政教育」、「模擬選挙」、「国際経済」、「国際政治」、「日本外交の指針」、「ワクチン格差」）について、外部講師による講義・ワークショップ、テーマ報告会、最終発表会等を実施し、関係諸機関職員と意見交換の機会を設けた。
- ⑦創造科学科第1学年「課題研究」では、外部講師による講義・ワークショップ、実験、観察、フィールドワークによる研究活動を行い、校内・校外におけるプレゼンテーション（スライド、ポスター）を行った。また、兵庫県立神戸高等学校総合理学科と合同発表会（オンライン）を実施し、相互の研究について意見交換を行った。
- ⑧「RRE (Research and Report in English)」では、現代社会の諸問題について知識を深め、英語コミュニケーション能力を高めるために、外部講師・教員による講義やワークショップ、「創造基礎」や「課題研究」で扱ったテーマについての校内外での発表、外国人留学生との交流会（プレゼンテーション・ディスカッション）を実施した（6/25、12/10、2/25）。
- ⑨「創造応用ⅠL」（社会科学）では、グローバルな諸課題について社会科学的な視点から考察し、外部講師による講義、文献研究・評価実験・フィールドワーク等による課題研究（個人研究）を行い、校内外でスライドによる口頭発表（日本語・英語）を行った。
- ⑩「創造応用ⅠS」（自然科学）では、グローバルな諸課題について自然科学的な視点から考察し、大学教員・大学院生のアドバイスによるワークショップ、課題研究テーマ・仮説の設定・実験実習およびフィールドワーク、校内外の発表会において研究成果を発信した。
- ⑪「創造応用Ⅱ」では、7月までに創造応用Ⅰで研究した成果を「未来創造シンポジウム」（4/10）において県内の中学生とその保護者、他校教員約300名を対象に発表した。また、論文と英文要約（社会科学）・報告書（自然科学・文理融合）を作成した。
- ⑫校外研修としては、以下の取組を実施した。
- ・海陽中等教育学校・岐阜県立岐阜高等学校・名古屋高等学校主催「第5回高校模擬国連東海大会」（4月：オンライン） 2名参加
  - ・本校主催「KOBE 研修 医療分野フィールドワーク」（7月：神戸アイセンター病院他講義）15名参加
  - ・本校主催「KOBE 研修 データサイエンス分野フィールドワーク」（7月：理化学研究所他講義）30名参加
  - ・本校主催「KOBE 研修 ロボット分野フィールドワーク」（8月：株式会社ダイヘン見学等）11名参加
  - ・本校主催「東京未来フロンティアツアー代替研修（神戸市）」（8月：オンライン）26名参加
  - ・日本経済新聞社主催「日経 SDGs フォーラム高校生 SDGs コンテスト」（9月：オンライン）3名参加（決勝進出）
  - ・ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）主催「アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム BRIDGE Across Asia Conference（アジア太平洋高校模擬国連大会）」（8月：オンライン）1名参加（選考有）
  - ・関西学院大学、特定非営利活動法人国際社会貢献センター（ABIC）主催「オンライン高校生国際交流の集い2021」（8月：オンライン）2名参加
  - ・WHO 健康開発総合研究センター主催「WKC フォーラム 2021 Global Health High School Summit ～高校生からの姫路宣言～」（10月：姫路市）3名参加
  - ・「数学・理科甲子園 2021（科学の甲子園全国大会兵庫県予選）」（11月：姫路市）6名参加

- ・文部科学省主催「2021年度 全国高校生フォーラム（使用言語：英語）（12月：オンライン）1名参加
  - ・甲南大学主催「リサーチフェスタ 2021」（12月：オンライン）2名参加
  - ・文部科学省指定グローバル型地域協働推進校探究成果発表委員会主催「Global Highschool Meetings 2022」（1月：オンライン）5名（日本語部門1名金賞（審査員特別賞受賞）、英語部門4名銀賞受賞）
  - ・神戸市立葺合高等学校（拠点校）主催「令和3年度 WWL 課題研究交流発表会」（使用言語：日本語）（12月：オンライン）3名参加
  - ・台湾高雄市教育局主催「Asian Student Exchange Program (ASEP)」（12月：オンライン）3名参加（Honorable Mention（特別賞）受賞）
  - ・兵庫県教育委員会・WHO 神戸センター（WKC）主催「HYOGO×WKC フォーラム 高校生 SDGs 探究発表会 2021」（2月：オンライン）32名参加 ※1名当日ライブ発表（選考有、生徒投票第1位・優秀賞受賞）、6名研究成果発表動画 Web 公開
  - ・兵庫県 NIE 推進協議会主催「NIE 実践発表会・高校生シンポジウム」（3月：オンライン）2名参加（パネリスト）
  - ・公益財団法人 日本農芸化学会主催「ジュニア農芸化学会 2022」（3月：オンライン）5名参加（選考有）
  - ・大阪大学大学院国際公共政策研究科主催「第7回国際公共政策コンファレンス（待兼山会議）」（3月：オンライン）1名参加（選考有）
  - ・IBL ユースカンファレンス実行委員会主催「第6回 IBL ユースカンファレンス」（3月：オンライン）4名参加
  - ・WHO 健康開発総合研究センター主催「WKC Forum 2022ーコロナ禍における学校と生徒のメンタルヘルス」（3月：オンライン）2名参加
- ⑬その他、以下の活動を行った。
- ・ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会主催「第29回ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」実行委員として企画・運営を実施（12月：オンライン）30名参加 ※うち13名実行委員
  - ・奈良女子大学主催「協働探究ラウンド・テーブル奈良 2021：JAL OODA との対話ーチームで仕事をするととは?」（11月：奈良県）6名参加
  - ・奈良女子大学主催「協働探究ラウンド・テーブル奈良 2022・春：浮標作品作成」（3月：奈良県）2名参加
  - ・長田区・高校生鉄人化まつり実行委員会主催「第12回長田区・高校生鉄人化まつり」（3月：神戸市）約100名参加 ※うち7名実行委員

10-2 「教育課程上での重点項目」として実施

(1)実施日程 ※◎は授業を実施

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「情報の科学」の開発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎

STEAM 教育に沿った学校設定科目の開発	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
BYOD(Bring Your Own Device)を活用した授業の実施										○	○	○

## (2)実績の説明

- ・「情報の科学」（普通科第2学年）の開発では、兵庫県立大学と連携し、「データサイエンス」に特化した演習授業を実施することで、教育課程特例による柔軟なカリキュラム開発を行う予定であったが、5月に指導・助言をいただくに留まり、3学期に本校独自でPythonを用いたビッグデータの編集・加工、可視化の授業を実施した。また、創造科学科学校設定科目「創造応用IS」では、数学と都市工学の分野をテーマに設定した生徒が、神戸大学の教員から指導を受けて統計的手法を用いた研究に取り組んだ。普通科第2学年の「総合的な探究の時間」では、心理統計を専門とされる神戸大学の教員より、アンケート調査の分析手法について講義をしていただいた。
- ・STEAM教育では、理科や数学、情報を中心に、統計やデータサイエンス、PBL（Project Based Learning）型授業を導入することを目指し、教育課程特例による柔軟なカリキュラム開発に取り組み、創造科学科では、令和4年度創造科学科入学生から、第1学年の学校設定教科「理数探究」を導入することを決定した。
- ・全教科でBYOD（Bring Your Own Device）を活用した授業の実施を目指し、創造科学科第1学年でタブレット端末の購入を検討したが、半導体不足により機器の準備が整わなかったため、「総合的な探究の時間」を中心に、生徒各自のスマートフォン等のデバイスを活用する授業を実施した。また、兵庫県教育委員会から「県立学校学びのイノベーション推進事業」として、164台のタブレット端末及び教育用クラウドのアカウントの提供、無線LAN、大型提示装置設置等の環境整備等の支援があったため、各教科でそれらを活用した授業を試行的に実施した。

## 10-3 「ベトナムとの比較研究のためのプログラム開発」

### (1)実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ハノイ国家大学自然科学大附属高校との協働研究								○	○	○	○	○
海外研修・受け入れの実施												
外国人留学生との交流			○						○		○	

## (2)実績の説明

- ・ハノイ国家大学自然科学大学附属高等学校との協働研究（神戸とハノイ両都市の経済、まちづくり、外国人：観光、労働がテーマ）協定を結ぶことができた。今年度は、学年末に第1学年「RRE」と第2学年「創造応用」で英語を使用して外部で発表したデータを送付し、フィードバックをもらうことで合意した。

- ・新型コロナウイルスの感染状況が厳しく、フエ大学およびイギリスのベクスリーグラマースクールとの協働事業は実施できなかった。本校の姉妹校である中国上海市松江二中（高校）とはオンラインによる交流を3回実施した（有志生徒各回10名程度）。また、創造科学科「RRE」において、主に発展途上国出身の外国人留学生（兵庫教育大学、神戸大学、大阪大学）を招いて、対面による研究発表と意見交換会を3回（各回10名程度）実施した。

#### 10-4 「教科横断型授業を推進する体制づくり」

##### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
推進組織の整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

##### (2) 実績の説明

- ・昨年度まで実施していた、教員有志による「ひょうごサロン」を通して活動推進を図ることには限界があると判断し、研究開発を一体的に推進する特色企画部を設置した。改組によって、地域との協働事業（グローバル型）の研究開発と兵庫県指定事業であるSTEAM教育開発の目的を明確にするとともに、連携しつつも昨年度見られた両事業の混同的实践を回避できた。

#### 11 目標の進捗状況、成果、評価

目標項目	進捗状況・成果	評価
1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		
a. 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した目標		
地域課題解決に向けて単なる提案だけでなく自らが積極的に行動し、地域貢献活動を行う。	事業終了時の成果目標値（以下、目標値）は360名であったが、今年度は約210名が、神戸市長田区の課題として地域産業のビーチサンダルやマッチの普及活動、マイクロライブラリーやストーリーウォークを通じた地域図書館の活性化を目的とした商業施設における普及活動および「長田区鉄人化まつり」の企画・運営を行った。	B
b. 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
地域課題解決のために生涯にわたって関わろうとする姿勢を持ち、社会人として地域に残り、地域を支えるリーダーとして活躍したいと考える生徒を増やす。	目標値は50%。今年度実施した意識調査における「社会人として地域に残り、地域を支えるリーダーとして活躍したいと思うか」という質問に対し、56.5%の生徒から肯定的な回答を得た。	A
c. その他本構想における取組の達成目標		
英語の授業改善や海外研修、外国人生徒との交流により、英語運用能力を向上させる。	目標値は85%。令和2年度同様、本校が作成した「英語Can-doリスト」を用いて英語担当者が生徒の英語能力レベルを測定した。その結果、対象生徒（令和3年度卒業	A



卒業時まで CEFR の B1～B2 レベルを取得させる。	生 315 名) のうち、B1 レベル以上を達成している生徒の割合は、81.3% (256 名) であった。	
2. 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)		
a. 地域課題研究または発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
生徒の成果発表会と教員の成果報告会を実施し、カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員、運営指導委員が実施状況を評価する。	<p>目標値は 12 回であった。</p> <p>〔普通科〕本事業の重要な目標である普通科「総合的な探究の時間」における探究活動を本格的に実施することで、次の 3 つの目標を達成できた。</p> <p>①SDGs のテーマに基づく探究活動を実践し、知識を深化させ、幅広い視野を養成する。</p> <p>②地域の課題の解決に向けて他者と協働する力を育成する。</p> <p>③学習の成果の発表を通して ICT 活用能力を高め、表現力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科では第 2 学年の中間発表会 1 回、第 3 学年の完成発表会 1 回の計 2 回の発表会を実施</li> <li>・普通科グローバルリサーチコースでは、第 2 学年中間発表会 5 回、第 3 学年完成発表会 1 回の計 6 回の発表会を実施</li> </ul> <p>普通科では合計 8 回の発表会を実施した。</p> <p>〔創造科学科〕探究活動を中心に据えた学校設定科目を設定・開発する次の目標をほぼ達成できた。</p> <p>①創造基礎では、地域の課題研究と実践活動に取り組み、社会の形成者としての在り方や生き方を考える。</p> <p>②創造応用では、現代社会が直面するグローバルな諸課題について探究活動を通して問題解決能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 学年では、創造基礎 B、課題研究の発表会を計 4 回実施</li> <li>・第 2 学年では計 4 回の発表会を実施</li> <li>・第 3 学年では 1 回の発表会を実施</li> </ul> <p>創造科学科では合計 9 回の発表会を実施した。</p> <p>今年度は普通科、創造科学科合わせて 17 回の発表会を実施することができた。</p>	A
b. 普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
探究学習に対する意欲を高め、公益性の高い国内外の大会に積極的に参加する生徒を増やす。	<p>グローバルな課題または地域課題に関する公益性の高い国内外の大会に参加した生徒の割合の目標値は 25% であった。新型コロナ禍で中止となった大会も多くある状況の中で、オンラインも含め外部の発表会への積極的な参加を促した結果、15 回延べ 187 名、全学年生徒 959 名に対し 19% の生徒が外部の発表会で探究学習成果を発表することができた。</p>	B
c. その他本構想における取組の具体的指標		
他校の生徒と教員が参加することで事業成果を普及さ	学校が主催するシンポジウムまたは発表会、報告会に参加する他校の教員および生徒数の目標値は 800 名であ	A

せる。	った。未来創造シンポジウム（対面：300名）、中学生対象創造科学科説明会における発表会（90名）、神戸高校総合理学科との合同発表会（オンライン：2回、延べ170名）、HYOGO×WKC フォーラム 高校生 SDGs 探究発表会2021（オンライン：200名）、計760名で概ね達成できた。	
3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）		
a. 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した指標		
地域人材との協働による教育活動を積極的に行い、地域人材参画の機会を増やす。	学校の教育活動に参画した地域人材の延べ人数は普通科、創造科学科の探究活動の指導助言やアンケート、インタビュー協力者は延べ164名で、目標値の150名を達成することができた。	A
b. その他本構想における取組の具体的指標		
課題研究を通して地域との連携を図り、NPO法人や商工会等と協働で事業を行う機会を増やす。	普通科および創造科学科の地域課題解決のための探究活動において生徒を受け入れ、活動に協力していただいた大学等高等教育機関、地域の行政機関、民間企業、NPO法人等は30団体で、目標値の25団体を達成することができた。	A

## 1 2 次年度以降の課題及び改善点

### （1）コンソーシアム各機関との連携によるグローバル型探究活動の充実

令和3年度は、「総合的な探究の時間」と学校設定教科「創造」を中心に令和2年度に構築したコンソーシアム各機関との連携によるグローバル型探究学習を推進することができた。今後は、兵庫県立大学と連携し、探究活動を支えるデータサイエンス分野の学習も行う。また、テーマ(10-1～10-3)に沿った外国との比較研究のための事業として今年度11月に交流協定を締結したハノイ国家大学科学技術大学附属高校の生徒の受け入れおよびベトナム現地への本校生徒派遣またはオンラインによる協働研究を実施する。

### （2）ユネスコスクールとしてのESDの推進とSTEAM教育活動との連携による教科横断的なカリキュラムマネジメント

令和3年度は、特色企画部を中心として、「総合的な探究の時間」に学校全体で取り組み、地域課題とSDGsを結び付けた教科横断的な探究学習を推進することができた。今後は、本事業の目的と軌を一にするも生徒の認知度が低いユネスコスクールやESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）、そしてSTEAM教育の理念に基づくカリキュラムマネジメントと環境整備の充実を図る。

### （3）探究学習のパフォーマンス評価の開発

普通科「総合的な探究の時間」および創造科学科学校設定科目の「創造」の授業を中心とした探究学習（①課題設定、②探究活動、③表現活動）のパフォーマンスについて、これまで①～③の各観点を4段階で評価する方法を用いてきた。今後は、総合的な探究の時間だけでなく、新学習指導要領における各教科の探究的な学びを評価する必要があることから、汎用性が高く客観的に評価可能な共通フォーマットの開発に取り組んでいきたい。

## 【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局高校教育課	TEL	078-362-9447
氏名	松岡 克晋	FAX	078-362-4288

職名	主任指導主事	e-mail	koukoukyouikuka@pref.hyogo.lg.jp
----	--------	--------	----------------------------------